

(5) 第71回全連小秋田大会について

……………森田 研修部幹事

全連小秋田大会は、10月17日・18日、秋田県立武道館をメイン会場に執り行われた。参加者数はおよそ2,300名の大会となり、開会行事に続き文部科学省講話があった。秋田の子どもは塾に通う率が低いことから「日本型教育の特徴」についての話題があった。さらに「働き方改革」「ICTを活用した学校の将来像」「教員新採用者数の考え方」など、文部科学行政の核となる話を多く聞くことができた。

午後からは13の分科会に分かれて熱心な討議が行われた。

北海道からは、第8分科会「リーダー育成」の分科会において帯広市立光南小学校の上坂 寛校長先生による、「キャリアステージにおける校長のリーダーシップ及び優れた実践力と応用力のあるリーダー育成」というテーマの提言があった。キャリアごとの研修の重要性から、何をどのようにいつ行うことが人材の育成につながるのか、また、現場と大学を結ぶことの必要性など、様々な事例が交流された。

また、第11分科会「社会形成能力」の分科会では、寿都町立潮路小学校の前田敦子校長先生より、「社会形成能力を育む教育活動の推進における校長の役割と指導性」についての発表があった。後志管内の校長の全面的な協力のもと、社会形成能力に関わる実態調査から、社会形成能力についてその重要性を問いながら、各校でどのような取組を進めているかという内容だった。グループ討議でも、今後どのような評価をすべきか、話題になっていた。

どちらの発表も、参会者への貴重な提言となり、その後の討議が活発に行われるもととなった。さらには北海道の提言力、結束力の強さをアピールすることにつながったと感じている。

二日目は、「新しい社会を切り拓いていく子どもたちへ」というテーマでシ

ンポジウムが行われた。元東レ経営研究所長社長・佐々木常夫氏、読売新聞特別編集委員・橋本五郎氏、内閣官房ふるさと活性化支援チーム委員・丑田香澄氏の3氏が登壇した。それぞれの立場から、学校教育へ期待すること、学校マネジメント、校長の役割、地域連携、教師とは学校とは教育とはなどについて意見が交わされた。